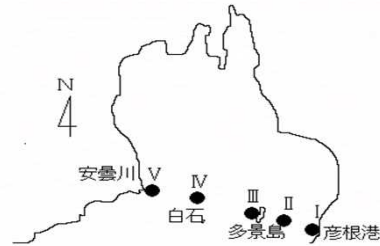


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和3年11月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和3年11月15日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

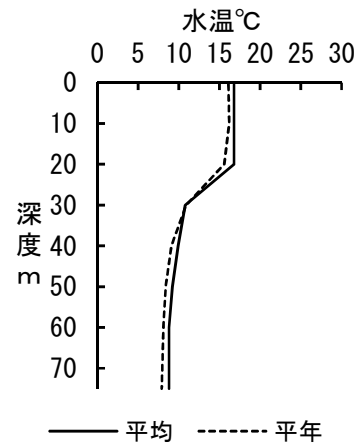
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2011年～2020年(平成23年～令和2年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 11月平均値 6.7m 平年値 6.3m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	11月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	16.8	16.1	+0.7
10	16.8	16.2	+0.6
20	16.8	15.6	+1.2
30	10.8	10.9	-0.1
40	9.9	9.1	+0.8
50	9.2	8.4	+0.8
60	8.8	8.1	+0.7
75	8.8	7.9	+0.9



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
10月下旬	18.6	18.6	+0.0
11月上旬	17.8	16.9	+0.9
11月中旬	16.3	15.3	+1.0

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	11月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	9.0	15.8	-6.8
10~20	5.2	5.0	+0.2
20~40	2.3	2.0	+0.3
40~75	0.7	0.5	+0.2

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、地点1、2、4で*Aulacoseira granulata*(アウラコセイラ:珪藻)が、地点3で*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)が、地点5で*Cosmocladium constrictum*(コスモクラヂウム:緑藻)がそれぞれ細胞数で最も多く確認された。

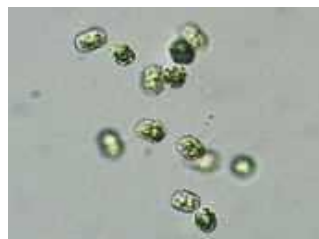
動物プランクトンについては、地点1、2、3で*Epistylis sp.*(エピステイリス属:繊毛虫類)が、地点4、5で*Conochilus unicornis*(ツノテマリワムシ:ワムシ類)が個体数密度で最も多く確認された。



Fragilaria crotonensis



Aulacoseira granulata



Cosmocladium constrictum



Epistylis sp.



Conochilus unicornis

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	11月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	9.3	98.3	9.7	101.6	-0.4	(-3.3)
10	9.2	97.3	9.5	100.3	-0.3	(-3.0)
20	9.1	96.7	9.3	97.6	-0.2	(-0.9)
30	6.7	62.6	7.5	71.0	-0.8	(-8.4)
75	4.1	36.4	4.6	39.7	-0.5	(-3.3)